琉球大学学術リポジトリ

宮古島ドイツ皇帝博愛記念碑漢文訳注

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学国際地域創造学部地域文化科学プログラム 公開日: 2023-05-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 良太, 大城, 龍之介, 大田, 春陽, 小田, 倫之, 本村, 育恵, 望月, 直人 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002019804

地理歴史人類学論集　No.12 (2023) pp.166-172
Journal of Geography, History, and Anthropology

［　訳　注　］

宮古島ドイツ皇帝博愛記念碑漢文訳注

新垣 良太[1]・大城 龍之介[2]・大田 春陽[3]
小田 倫之[4]・本村 育恵[5]・望月 直人[6]

A Translation and Annotation of Chinese Text of "German Emperor's Philanthropic Monument" in Miyako Island.

Ryota ARAKAKI, Ryunosuke OSHIRO, Haruhi OTA,
Tomoyuki Oda, Ikue MOTOMURA, Naoto MOCHIZUKI

はじめに

今回、東洋史ゼミで「ドイツ皇帝博愛記念碑」の現地調査を行った。調査の目的は、まず一つ目に沖縄県内にある漢文史料の読解を行い、歴史学的に地域に貢献するということである。二つ目が、「ドイツ皇帝博愛記念碑」には、欧文と漢文が記されている。漢文は碑陽のドイツ語碑文の下部と碑陰に同じ文章が記されている（ただ碑陽の文章は摩滅が相当に進んでいる)。欧文については、すでに先行研究で翻訳されているが、管見の限り、漢文の通釈は行われていない。

そこで今回、「ドイツ皇帝博愛記念碑」を漢文の興味深い使用例として考え、その周知を図るため、漢文の書き下し文と通釈文を作成した。

１．ロベルトソン号座礁事件とドイツ皇帝博愛記念碑

ロベルトソン（R・J・Robertson）号はドイツ中部の都市マインツ(Mainz)の生まれのエドゥアルト・ヘルンスハイム（Eduard Hernsheim）の所有する船である。船名はヘルンスハイムが援助を受けた伯父のルーベン・ヨーナス・ロベルトソン（Ruben Jonas Robertson)に因む。1872 年に石炭運搬のため福州まで航海した。

---

[1] 琉球大学国際地域創造学部 4 年生。
[2] 琉球大学国際地域創造学部 4 年生。
[3] 琉球大学国際地域創造学部 3 年生。
[4] 琉球大学国際地域創造学部 3 年生。
[5] 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班。
[6] 琉球大学国際地域創造学部准教授。

○ロベルトソン号座礁地（宮国沖：学生撮影）

ヘルンスハイムはアジア間貿易の活況に触発されて中国・オーストラリア間の貿易に従事するようになった。1873 年 7 月 3 日、オーストラリアのアデレード（Adelaide）に向けて福州を出航したが、9 日に台風に巻き込まれ、11 日に宮古島南西の宮国沖（旧上野村沖）で座礁した。乗員のうち、宮古島の人々がヘルンスハイムら乗員 8 名を救助した。乗員は 1 か月あまり滞在し、譲り受けた船で台湾へと出発した。

この救出劇はドイツ皇帝ヴィルヘルム一世（Wilhelm I）の耳に入り、3 年後にドイツ政府はチクロープ（Cyclop）号を派遣して顕彰のための石碑（右掲の写真）を現在の宮古島市平良字西里に建てた。

○ドイツ皇帝博愛記念碑（学生撮影）

辻朋季によれば、博愛記念碑のドイツ語碑文の内容は下記の通りである。

ハンブルク出身の船長ヘルンスハイムに率いられたドイツ船 R.J. ロベルトソン号は、1873 年 7 月、太平山の海岸の岩礁に座礁した。乗組員は、海岸の居住者の援助により救出され、安全な場所に運ばれ、1873 年 8 月 17 日に帰郷の旅が実現するまでの 34 日間、手厚いもてなしを受けた。この立派な行いを認め神の恩寵を授かりしドイツ皇帝にしてプロイセン王である朕ヴィルヘルムは、末代までの記憶にこの記念碑の設置を命じた。[7]

その後、1930 年代に日本がドイツに接近する中でロベルトソン号座礁事件はあらためて顕彰の対象となっている。旧上野村のロベルトソン号座礁地近くには近衛文麿の揮毫による「独逸商船遭難之地」の記念碑があるが、この時に建立されたものである。

２．石碑漢文通釈

〈白文〉

歳在一千八百七十三年七月間由德國漢布海口駛出兒伊羅被孫夾板船一隻途經太平山島海沿悞觸礁石而毀船主亨恩嘻摸及水手人衆荷蒙彼處土人從驚濤駭浪中措諸袵席之上且三十四日之款納周旋始終如一迨是歳八月十七日歸而述於衆朕聞甚嘉島民之存心仁厚也乃立碑島側俾垂之後世以誌不忘云

大德意志國奉天承運皇帝布國主威立燕御筆

〈書き下し文〉

歳は一千八百七十三年七月間に在り、德國(ドイツ)の漢布(ハンブルク)海口より駛出せる兒(R)・伊(J)・羅被孫夾(ロベルトソン)板船一隻、途に太平山島の海沿を經(ふ)るに、悞(あやま)りて礁石に觸れて毀る。船主の亨恩嘻摸(ヘルンスハイム)及び水手の人衆、彼處(かしこ)の土人驚濤駭浪の中從(よ)り諸(これ)を袵席の上に措(お)くを荷蒙せり。且つ三十四日の款納周旋、始終一(いつ)の如し。是の歳の八月十七日に迨(およ)びて帰りて衆に述ぶ。朕聞きて島民の存心の仁厚なるを嘉(よみ)するなり。乃ち島側に碑を立て、之を後世に垂れしめて、以て不忘を誌(しる)すと云ふ。

大德意志(ドイツ)國奉天承運皇帝・布(プロイセン)國主威立(ヴィルヘルム)燕御筆

---

[7] 辻朋季「ドイツ語資料から読み解く宮古島「ドイツ皇帝博愛記念碑」建立の経緯」より転載。

〈現代語訳〉

1873 年 7 月、ドイツのハンブルク港から出航した R. J. ロベルトソンという夾板船（大型の西洋帆船）が、航路として宮古島の沿海にさしかかって、誤って暗礁に接触して損壊した。船長のヘルンスハイムおよび乗員は、当地の人々によって猛る波の中から（救い出していただき）心休まる場所に移していただいた。また、34 日間、（船員に対する）款待や介抱は終始変わらなかった。その年の 8 月 17 日に帰国し、ドイツの人々に伝えた。わたしドイツ皇帝は島民の心がとても情け深くて親切なことを聞き、喜ばしく思った。そこで、島の外縁部に碑を立て、このことを後世に伝えることで、私が忘れずにいることを示す次第である。

大ドイツの天を奉じて運を承けたる皇帝にしてプロイセン国主のヴィルヘルム（一世）の御筆

〈注釈〉

・一千八百七十三年七月間…以下、年月日はいずれも西暦。

・德國…　ドイツのこと。国名の漢字標記は全て当時の中国（清朝）のものに準拠している。

・漢布…　ドイツの都市ハンブルク（Hamborg）。エルベ川の下流部に位置する大貿易港。

・夾板船…西洋式の大帆船のこと。『（道光）厦門志』（巻五、船政略、番船）には、以下のようにある。―「呷板船又稱夾板船、以其船底用夾板也。或云「呷板嶼在西、南洋之交文柔山下英機黎造船處。」内地統呼夷船爲呷板船。」

・太平山島…宮古島のこと。ただし「太平山（島）」は宮古諸島全体を指す場合ことは注意。

・措衽席上…本来は布団や敷物、もしくは寝所の意であるが、『孔子家語』王言の王肅の注に「言安安而無憂（安らかで心配がない様を言う）」とあり、これがドイツ語碑文の「安全な場所に運ばれ」に対応する。

・云…　この形の「云」は、文末について国文のドゾの意の場合は「ということ（話）である」の意味で、自分の言った言葉の終わりにつける場合は「という次第（わけ）である」の意味になる（多久弘一・瀬戸口武夫『（新版）漢文解釈辞典』国書刊行会、1998 年、560 頁）。

・奉天承運皇帝…当時の中国・清王朝の皇帝が上諭文などで用いていた称号。ドイツ語碑文に照らし合わせると「神の恩寵を授かりし…皇帝」と対応するものとして用いられている。

・德意志…　ドイツのこと。

・布…　プロイセンのこと。

〈凡例〉

・沖縄県宮古島市平良西里に現存するドイツ皇帝博愛記念碑の漢文碑文に準拠し、沖縄県宮古郡教育部会編『獨逸國商船遭難救助並仝國皇帝建碑顛末書』（沖縄県宮古郡教育部会、1935 年）を参照した。

・字体は、異体字は正字体（康熙字典体）に直した。

※なお、本訳注作成に際して、宮古島市総合博物館から「宮古島ドイツ皇帝博愛記念碑」に関する貴重なご教示を賜りました。末節ながらこのことに深く御礼申し上げる次第です。

【参考文献】

砂川玄正「『蔵元文書』と『船長日記』に見るロベルトソン号遭難救助の顛末」『平良市総合博物館　紀要』2 号

武井弘一『グローカルな沖縄の歴史入門』琉球大学国際地域創造学部地域文化プログラム、2022 年

辻朋季「ドイツ語資料から読み解く宮古島「ドイツ皇帝博愛記念碑」建立の経緯」『明治大学教養論集』528 号、2017 年

宮古島市教育委員会『綾道（平良北コース）』宮古島市教育委員会、2014 年

琉球大学西洋近現代史ゼミ「ドイツ商船 R.J.ロベルトソン号漂着事件における「博愛美談」再発見―宮古島・日本・ドイツ」『地理歴史人類学論集』8 号、2019 年

【参考資料】

〇漢文碑文（碑陽下部：学生撮影）

○漢文碑文（碑陰：学生撮影）